

世界中の学生と仲良くなれる

国際学生会議（以下、ISC）は、研修旅行と本会議に分かれています。

研修旅行では、メンバーはそれぞれ京都・大阪・神戸・岡山・福岡のいずれかを外国人学生たちと訪れ、交流を深めます。その



後、いよいよ東京での本会議。ここでは日本人学生と外国人学生が、社会問題や国際的な問題について英語で議論します。

これは分科会と呼ばれる、会議最終日には、より多くの方に私たちが話し合っただけでなく、知ってもらった議論の要約をサマリー発表

フジイ カナ

藤井 加奈

今回紹介するのは、文学部3回生の藤井加奈さん。今年8月26日から9月5日まで行われる第56回国際学生会議の実行委員として活躍されています。「さまざまな国の人と話すことが好き」と話す彼女に、大学会館でお話を伺いました。



じつは英語は得意ではないんです

海外の学生と話すことは本当に楽しいのですが、じつは英語は得意ではないのです。しかし、誰かと仲良くなるために重要なのは言葉ではありません。その場の雰囲気や仲良くなれちゃうものなのです。そのコツは「笑うこと」、そして「人の話に耳をかたむけ、思ったことははっきり言う」ということです。もともと人見知りな私ですが、こういった活動に関わるようになってからは「人と積極的に話さなきゃ」と思うようになりました。

今の経験を生かせる仕事に就きたい

文学部では哲学を専攻している

話せなかった悔しさをバネに

今回私は、このISCの実行委員をしているのですが、その契機になったのは昨年と一昨年に参加した研修旅行です。この旅行で、海外の学生と話したり、運営に関わったりすることで充実感を得られた反面、思うようにコミュニケーションが取れなかったことに悔しい思いをしました。その



時は本会議までは参加しなかったのですが、今年は海外の学生と話す機会をもっと増やそうと決意し、本会議に参加します。自分のためにも、そして、外国の人と交流を深める機会があることを多くの人に伝えるためにも、実行委員として頑張っています。

また、ISCでの経験を卒論にも盛り込めたいなと考えています。そしてもちろん、将来の仕事にもISCでの経験を生かしたいです。海外とかかわりが多い企業で働くのもいいと思いますし、そうでなくても、地元で交流会を企画するのも面白いかな、と考えています。